

## フィンランド短期留学で看護専門科目を受講した看護大学生の学び (第2報)

板東 孝枝<sup>1)</sup>, 岡久 玲子<sup>1)</sup>, 今井 芳枝<sup>1)</sup>, 横田 真梨菜<sup>2)</sup>, 一宮 由佳<sup>2)</sup>,  
植野 結衣<sup>2)</sup>, 藤江 華<sup>2)</sup>, 松浦 日向子<sup>2)</sup>, Locsin, Rozzano De Castro<sup>1)</sup>

1) 徳島大学大学院医歯薬学研究部, 2) 徳島大学医学部保健学科看護学専攻

### 1. はじめに

徳島大学医学部と学部間学術交流協定を締結しているメトロポリア応用科学大学は、北欧フィンランドに位置する。近年、フィンランドでは、急速な高齢化や保健サービスの地域格差など、日本と同様の問題に直面している<sup>1)</sup>。看護師は1次医療での電話トリアージやセルフケアの助言、2次医療での院内トリアージや医師の代替医療行為（自治体の医療行政の許可の範囲内）を行っている<sup>2)</sup>。

フィンランドの看護師養成では実習がプログラム全体の3分の1程度をしめており、シミュレーション教育も充実している<sup>2)</sup>。講義形式の教授方法は少なく、一般的に基礎的知識は自己学習で理解し、演習およびデブリーフィングを重視した教育が行われている<sup>2)</sup>。

本学では、2011年より毎年フィンランドに留学生を派遣してきており、本年は看護教員および看護3年生（編入生を含む）と看護4年生が留学を体験した。留学時期は、3年後期の臨地実習開始前の8月から9月であり、看護専門科目の講義、演習をすべて履修済みであった。

本研究の目的は、フィンランド短期留学プログラムで看護専門科目を受講した看護大学生の授業体験とその学びを明らかにすることである。留学前に日本で看護専門科目の講義、演習を履修済みである看護学生の留学成果を考察することで、今後の学部授業内容の見直しやより充実した留学プログラムを検討するための基礎資料とする。

### 2. 研究方法

1) 対象：2018年度にフィンランドのメトロポリア応用科学大学保健看護学部で短期留学した看護学専攻3年生と4年生を対象とした。留学期間は、2018年8月中旬の約1週間であった。

2) 学生が体験した看護専門科目の内容

科目名：“Perioperative Nursing”と“Advanced Acute Care”

### 3) データ収集方法

学生の学習記録：看護専門科目の授業終了後に研究者らが作成した記録用紙に講義の内容、学びと学部講義への要望を記述してもらった。

### 4) 分析方法

学生が記載した学習記録の内容を基に、今回の短期留学に同行し、学生が体験した看護専門科目である周手術期看護の領域を教育・研究している教員を中心に、看護3年生および看護4年生がフィンランド短期留学で履修した看護専門科目の授業内容とその学びを分析し、留学の成果および今後の授業内容への要望を考察した。

### 5) 倫理的配慮

今回の調査に当たり、学生に研究目的と方法について口頭で説明し、同意を得てから実施した。研究協力は任意であり、同意しない場合でも不利益はないことを説明した。帰国直後に臨地実習を控えている学生の負担にならないよう、簡潔に学びを整理していくことのできる記録用紙を作成し、学びの内容が鮮明なフィンランド留学中に記載できるよう配慮した。

### 3. 結果

対象者は、看護学専攻3年生3名（編入生2名を含む）、看護4年生2名の計5名であった。学生は、看護専門科目として、Perioperative Nursing（周手術期看護）とAdvanced Acute Care（急性期ケア）を履修した。

#### 1) Perioperative Nursing（周手術期看護）

##### 麻酔看護

①授業内容：Perioperative Nursingの授業時間は13時から15時15分までで、講義形式であった。

講義は麻酔の歴史から展開され、麻酔の導入や麻酔管理については、写真を多く使用し、視覚的に専門授

業に対する理解を深める構成となっていた。特に、麻酔看護師の資格を取得した教員が実際の臨床場面でのエピソードを織り交ぜながら講義をする場面が印象的であった。

②学生の気づき・学び:「麻酔看護は日本にはないため、とても新鮮であった。」「徳大では麻酔の講義がなかったので、各論実習までに自己学習をしておきたいと思う。」「フィンランドでは circulating nurse という麻酔を担当する看護師がいることを知った。手術を実施する上で欠かせない麻酔について、医師だけではなく、看護師も十分な知識が求められると気づいた。」「スマホのアプリケーションを使いリアルタイムで授業内容を問題として作成し、4つの選択肢で答えるクイズは、学んだことをすぐにアウトプットすることが出来るのでいいと思った。」「講義の最後にクイズ形式で復習しているのが楽しそうだし、勉強にもなっていると思った。」「講義後のクイズ形式のまとめは学生のモチベーションをあげるのに効果的だと感じた。徳大でもこのようなシステムを導入してほしい。」

## 2) Advanced Acute Care (急性期ケア)

①授業内容: 授業時間は13時から15時15分までで、ABCDE アセスメントの視点について、内容及びアセスメントの意図が詳しく教授されていた。

②学生の気づき・学び:「看護のアセスメントの方法をABCDEのポイントに分けて項目を整理し、そのうえで1つずつ詳しく説明してくれたので勉強になった。」「今までA (Airway: 気道)、B (Breathing: 呼吸)、C (Circulation: 循環) というのは知っていたが、詳しく学習できていなかったもので知識不足を感じた。特にD (Disability: 中枢神経)、E (Exposure: 脱衣と外表、体温) については全く知らなかったので、日本に帰ったら学習しようと思う。」「Cの循環の評価で心電図モニターの読み取りやショック波形を学んだ。ABCDEをどのように評価するのが具体的に学べた。」「ABCはどの国でも統一された内容なので、どの国の医療者も正しく理解しておく必要がある。」

## 3) 講義を受けるフィンランドの学生に対する印象:

「メトロポリアの学生は、積極的に授業参加しており、教員からの質問にも積極的に答えたり、手を挙げて質問していた。」

## 4. 考察

フィンランドでは日本と看護教育カリキュラムが違っており、3年半で卒業と同時に看護師免許を取得することができる<sup>2)</sup>。実践力を重視した教育がなされているため看護専門科目においても、アクティブラーニングを取り入れて、自ら考えながら学ぶ教育がなされていると考えられる。

フィンランドには circulating nurse という麻酔を担当する看護師が存在する。日本においては、2010年に聖路加国際大学が大学院修士課程として周麻酔期看護師養成講座を開設し、現在5大学の大学院が周麻酔期看護師教育課程を持ち、2018年7月までに17人が修了しており<sup>3)</sup>、医療の高度化のチーム医療の推進へ対応するために高度な実践能力を持ち役割拡大が求められている<sup>4)</sup>。今回の短期留学で学生が、circulating nurse が行う看護専門科目を受講できたことは、大変貴重な経験であり、臨床に根差した質の高い講義から学生の専門科目への関心や学びの深まりに繋がったと考える。

## 5. 結論

看護学生はフィンランド短期留学で、既習の知識と国際的な視点での新しい知識の習得をもとに、日本との比較をしながら専門科目履修による学びを深めることができていた。今回の結果を踏まえ、看護専門科目に対する学生の関心と学びの深まりを促進するための授業設計について教員間検討を行い、アクティブラーニングの積極的な導入など、教授方法についての工夫の必要性が示唆された。

## 文献

- 1) 山田真知子: フィンランド保健ケア改革の動向-2011年5月1日施行の「保健ケア法」-, 自治総研通関 390, 78-104, 2011
- 2) 田中周平: フィンランドにおける救急医療体制と救急看護教育の現状, 山口県立大学学術情報 看護栄養学部紀要, 9, 129-136, 2016
- 3) 赤瀬智子, 他. 大学院における周麻酔期看護師育成のための教育課程の教育内容および設立経緯の報告, 横浜看護学雑誌, 11(1), 36-41, 2018
- 4) 田中聡: 周麻酔期看護師の誕生と役割への期待, 手術ナーシング, 4(4), 78-83, 2017